

# ふるさとの 植物を守ろう

No. 9 August 2012

植物園と市民で進める  
植物多様性保全ニュース

Japan Association of Botanical Gardens  
社団法人日本植物園協会

## 環境省が行っている絶滅危惧植物の種子収集・保存推進業務

環境省野生生物課 希少植物種保存専門官 関勝雄

環境省では、絶滅危惧種の生息域外保全の重要性の高まりを背景に、生息域外保全のあり方等に関する検討を重ね、平成21年1月に「絶滅のおそれのある野生動植物の生息域外保全に関する基本方針」を策定し、この基本方針に基づき、(社)日本植物園協会と連携し、絶滅危惧植物の種子の生息域外保全を行っています。

絶滅危惧植物の種子収集と保存の仕組みは、植物園、大学、研究機関等において、日本各地の自生地で絶滅危惧植物の種子を採集し、種子保存拠点園である新宿御苑に送付します。新宿御苑では自生地等のデータの取りまとめや種子の調整、乾燥作業を行った後、-20℃で冷凍保存します。

また、DNA解析用葉サンプル及びさく葉標本は、新宿御苑から国立科学博物館筑波実験植物園に送付し保管・管理されます。

本ニュースレターでは、環境省が行っている絶滅危惧植物の種子収集・保存推進業務を紹介させていただきます。

平成22年度は、種子の収集・保存を推進して絶滅危惧植物の保存種数を増やすことを目標に、27年度までの収集予定計画などが明記されている「種子収集・保存計画」の策定を行いました。

計画の策定にあたっては、収集における課題等を抽出して、検討会による有識者の助言を得ました。

また、この計画に基づき、東北地域、関東北部地域、北陸地域、四国地域、沖縄本島地域でそれぞれ東北大学植物園、東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園、新潟県立植物園、高知県立牧野植物園、(財)海洋博覧会記念公園管理財団の協力を得て種子収集を行い約77種の絶滅危惧種の種子の保存を行いました。

さらに平成23年度は、22年度に実施した5地域に加えて、三河地域、九州南部地域、石垣・西表地域で、それぞれ富山県中央植物園、(財)海洋博覧会記念公園

管理財団の協力を得て種子収集を行い約130種の絶滅危惧種の種子の保存を行いました。

平成24年度は、北海道地域、南アルプス地域、奄美大島地域の絶滅危惧植物の種子収集を行います。

北海道地域は、大雪山系で種子収集を予定しております。山岳ということもあり困難が予想されますが、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園の協力を得て一つでも多くのターゲットを収集できるよう取り組んでまいります。

### 今後の目標

各植物園から送付された種子と拠点園活動、環境省の業務で収集した種子等を合わせると、平成24年3月末現在で、218種(重複を除く)の自生地の由来を持つ絶滅危惧植物の種子を保存しています。

(社)日本植物園協会が植物多様性保全2020年目標として掲げた253種を目指して一刻でも早く達成できるよう努力していきます。

最後に、絶滅危惧植物の種子収集・保存は、地元の自生地を把握する植物園等のご協力が不可欠です。これからも引き続き御協力をお願いします。



沖縄本島地域で行った種子収集

## 保全活動等に関する実施報告

### 第54回企画展 植物たちのSOS レッドデータブックからの警告 ●●●●●●●●●●

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 宮本 卓也

ミュージアムパーク茨城県自然博物館では、2012年3月10日(土)～6月10日(日)に第54回企画展「植物たちのSOS -レッドデータブックからの警告-」を開催いたしました。本企画展では、環境省や茨城県が指定する主な絶滅危惧植物のうち108種を標本や写真、ポタニカルアートなどで紹介するとともに、絶滅危惧植物の保護に携わる施設や団体の取り組みにもスポットを当て、絶滅危惧植物を取り巻く現状や自然環境保護への啓発につながるような展示を行いました。

その中でも、本企画展の目玉ともいえる絶滅危惧植物の栽培株生体展示は、様々な植物園の御理解や御協力によって実現させることができました。北海道大学植物園からお借りしたレブンアツモリソウをはじめ、小石川植物園からのムニンノボタン、新潟県植物園からのオキナグサ、国立科学博物館筑波実験植物園からのコシガヤホシクサなど、一度にまとめて見る機会がなかなかないような植物たちを生きのまま展示するという大変見応えのあるものとなりました。レブンアツモリソウの開花時には、新聞などのメディアで取り上げられたこともあり、この花を見るために遠くから駆けつけた来館者や花の展示に関する問い合わせが急増するなど、反響の大きな展示となりました。

企画展記念イベント「小貝川の絶滅危惧植物を観察しよう」、「タチスミレを観察しよう」、「植物園での絶滅危惧植物を観察しよう」の3つのイベントも、各回ほぼ定員となる参加があり、身近なところに絶滅危惧植物が生育している様子を参加者の皆さんに実際に知っていただくことができました。

開催期間中の通算来館者数も10万人を超え、好評のうちに幕を閉じました。今後も、絶滅危惧植物を通して自然環境保護について関心をもっていただけるような情報発信や活動を行っていきたいと思います。

最後に、本企画展を開催するに当たり、御協力をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。



### 守ろう地球のたからもの—絶滅危惧植物展— ●●●●●●●●●●

筑波実験植物園 國府方 吾郎

毎年、当園では企画展「絶滅危惧植物展」を開催しており、今年も6月2日から10日にかけて行いました。この企画展では、大きくパネル展示と生植物展示の2つに分かれています。パネル展示では、日本の絶滅危惧植物の現状がどのようになっているのか、生物多様性がなぜ大切なのかという疑問に対してわかりやすくパネルで答えるかたちになっています。また、そのパネルをまとめて小冊子をつくり、配布しました。多くの年齢層の方に興味を持ってもらいましたが、そのなかでもが一生懸命にパネルを読んでいた小学生・中学生の生徒さんがたくさんいたことは私たちに開催した充実感を与えてくれました。生植物展示では、当園のシビイタチシダを含むシダコレクション、ランコレクション、小笠原・琉球のコレクションのうち、いつもはバックヤードで栽培している絶滅危惧植物の一般公開、そして園内に植栽している植物の観察ツアーを行い、100種類以上の絶滅危惧植物を観察してもらいま

した。ほとんどが目立たない植物であったものの、多くの方がその希少性を感じながら興味を持って観てくれたことに一般の方々の絶滅危惧植物に対する関心が高いことを実感しました。この企画展は、その性格上、責任の重さを感じましたが、一方で多くの方に生物多様性と絶滅危惧植物を考えてもらうことができたので、とてもやりがいのある企画展となりました。



パネル展示の様子



